

令和4年アユの遡上状況

河川名 (組合名)	相模川 (相模川漁連)	酒匂川 (酒匂川漁協)	早川 (早川河川漁協)	千歳川 (湯河原観光漁協)	多摩川 (川崎河川漁協)
遡上開始の 時期と型	<ul style="list-style-type: none"> 相模大堰において、3月以前から遡上の兆候を確認。 寒川取水堰において、2月20日から28日にかけて遡上の監視を行い、3月1日から遡上調査を開始。 型は良好 	<ul style="list-style-type: none"> 3月12日に酒匂川支流の下菊川下流域で稚鮎の群れが遡上するのを確認。昨年より早い。型は5~6cm。 3月19日に狩川花下橋下流堰堤で天然遡上稚鮎の跳ねを確認。型は5~10cm 4月1日に酒匂川本流小田急線下流の堰堤で跳ねを確認。 	<ul style="list-style-type: none"> 遡上開始時期は、2月12日に確認。 型は約5cm。 	<ul style="list-style-type: none"> 遡上開始は4月で、少し遅い。 型は平年より少し小さめ、5~6cm程度。 遡上量は多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 遡上開始は3月上旬、例年並み。 型はほぼ平年並み。
その後の経過 (量・型・特徴等)	<ul style="list-style-type: none"> 寒川取水堰 3月1日~3月31日 5,007,975尾 4月1日~4月30日 5,254,304尾 5月1日~5月10日 853,717尾 型は良好 相模大堰 5月8日現在 8,006,618尾 	<ul style="list-style-type: none"> 3月25日に上流域まで遡上した下菊川の稚鮎を確認。この下菊川に天然鮎の遡上を確認されるのは4月下旬から5月に入ってからなので、今年は遡上が早いし、遡上量も多い。 3月31日、4月4日の降雨で少し増水したので、更に遡上したものと思われる。 狩川で見られた遡上鮎は4月1日現在で10cm以上あり、この時期としては大きい型である。 	<ul style="list-style-type: none"> 量は例年より遡上量は多い。 型は2月の時点では小さい感じがしたが、3月に入って7~8cmに成長している鮎がいるようになってきた。4月後半になって、遡上が多くなってきた。 早川河口で西湘バイパス橋脚の補強工事を行っている関係で遡上を阻害されている感じが見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 4月、5月ともに遡上量は多い。 水温は14~15℃で低い。 体調は15cm程度。 	<ul style="list-style-type: none"> 3月上旬は雨が少なく水量が足りていなかったが、降雨により遡上数が多くなった。 4月も降雨後は、遡上数が多くなっている。 5月に入っても引き続き順調に遡上が続いている。
遡上量の 多い日の量 (1日当たり)	<ul style="list-style-type: none"> 寒川取水堰 3月25日 501,847尾 3月27日 512,130尾 4月6日 427,312尾 4月7日 461,640尾 4月8日 568,888尾 相模大堰 4月7、8、9日 各日：45万尾前後 4月23日 1,126,660尾 	<p>4月1日から遡上調査を実施。調査時間は11時~17時まで。調査方法は、5分計測し、10分休むを交互に繰り返す。</p> <p>4月1日 601尾 4月18日 4,005尾 4月5日 8,236尾 4月26日 19,001尾 4月8日 4,151尾 4月27日 2,312尾 4月13日 31,743尾 5月6日 3,409尾</p> <p>(以後、5回調査の予定)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 10,000尾/時間、全体的に遡上するサイズは小さめであるが、遡上は多くなってきている。5月に入って西湘バイパスの工事が休止しているせいか、遡上が多くなった。 しかし、カワウ、シラサギ、アオサギに捕食されている現状があり、また、鳥の数が年々多くなってきている。鳥害対策を行っているが、根本的な解決に至っていない状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> 遡上量未確認 	<ul style="list-style-type: none"> 3月27日 2,168尾 (雨天の5日後) 4月10日 10,139尾 (雨天の5日後) 4月27日 8,079尾 (雨天の5日後) 雨天の5日後に遡上が多く確認されている。
昨年までの 比較等	<ul style="list-style-type: none"> 本年は明らかに遡上数が多いことを確認している。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年は3月中旬に久野川下流域でも多くの鮎の遡上の群れが確認され、遡上が早い。また、大磯港、早川港にも鮎の群れが確認された。今年はかなり多くの鮎の遡上が期待されると思われる。さらに、4月11日には山北地区支流の内川の魚道で遡上稚鮎を確認した。 河川の状況では、3月、4月の降雨で水量は多かったが、5月に入って水田の給水が始まり、水量が減少してきた。 天然遡上も多く、狩川の花下橋下流堰堤で特採による汲み上げを実施。4月1日から4月22日までの9日間、47.33kg、15,822尾で、谷峨地区の本流へ放流を実施。2017年、2018年以来である。 	<ul style="list-style-type: none"> 4月後半から遡上が多くなり、昨年より増えている。 令和3年10月から令和4年3月まで雨量が少なく、川は渇水状態であった。また、今年も西湘バイパスの橋脚の補強工事で遡上時期に河口で阻害されている日が多く発生している。 早川の源流である芦ノ湖からの水が平時に流れていないため水量が少ない。水量が少ないと、魚の餌になるものも少ないため成長が悪い。芦ノ湖の水を早川に常時流す対策が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 遡上量は多い。 水量はやや多い。 水温はやや低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年は、遡上が多かった4年前より遡上数が増えている。 確実に遡上数は昨年を上回る。 型は小さい。